



令和元年の番匠地区の被害の様子。地域の人の手で、浸水した家から大量の災害ごみを撤出した。

**令和元年の台風19号による増水**  
**岡野** 小室さんにお聞きします。令和元年の台風19号のとき、番匠の川北橋付近が浸水しましたが、橋に続く道の高さまで冠水したのですか。  
**小室** あとわずかのところまで来ました。でも橋自体は越さなかったです。  
**岡野** それでもすごい高さですね。  
**小室** 当時の話ですが、10月の12、13日と台風で大雨があり、数軒の家の床上や床下に水が入ってしまっていた。これは気の毒だと思って、掃除の許可をもらったんです。全部で16軒ありました。私がちょうど番匠の代表区長をしていたので、各区長に連絡をして、

とにかく片付けを手伝ってくれませんかと案内を回覧したら、30人くらいがエントリーしてくれました。テレビで見えたことなかった、被災された様子が実際に目の前にあると、言葉が出ませんでした。「こんなことがあっていいのか」「本当に気の毒だ」と思いました。そして、みんな一緒に作業をしました。床下に潜ってヘドロをとって、宅内の片付けや掃除をしました。お礼も言っていたけど、ありがたいと思っただけでした。  
 そのあとは、何かあったときはこういう手助けができるかという思い、出ていただいた方に、番匠のボランティア団体として有志を募りました。いつ辞めても結構ですよ、という形をとっていますが、半数くらいが登録してくれて、それは今も継続しています。  
**町長** こういう狭い町だから、地元の人たちがボランティアに来ると、被災した方も安心します。  
**小室** 当時、心残りだったのが、周囲が水浸しの家に、その家のお母さんが一人で取り残されてしまったことがあったんです。私たちが動けない中、息子さんが、泳いで助けに向かい、ボートに乗せて連れてきてくれた、という

ことがありました。いざとなったらあそこまでやれなくちゃいけないだろうなという思いと、もう少しやれることがあったんじゃないかと、そういう思いがありますよね。  
**岡野** あの時は、消防などの救助系は、同時多発で出られなかったのですか。  
**小室** 来られなかったんだよね。舟も既に下流で使っていたみたいで。  
**岡野** 同時多発の災害だから、当然助けが来ないこともあるわけですからね。そして、水浸しになった時には、どうにもできないんですね。  
**小室** どうにもできない。自然に引くしかないんだから。川北橋は、本流と馬場から来る水が一緒になるうえ、橋の下が狭いこともあって、どうしても水位が上がってしまう。  
**岡野** ただ、助けに行くことによる二次災害はあってはならないですからね。  
**小室** その後の大雨の時は、その地域の人々は、すぐ高いところに避難するようになったそうです。  
**甲山** 1年間に降る雨の3分の1近くが24時間で降りました。でも豪雨が続いたのではなく、だから危険を感じにくかったようです。

**令和4年7月の関堀の土砂災害**  
**岡野** 根岸さんも大変でしたね。  
**根岸** 関堀では、当時300ミリを超える雨量があったようですが、崩れ始めたのは100ミリくらいからのようです。長年の積み重ねがあって、「来る時が来た」みたいです。でもあそこまで崩れるとは思わなかったですね。まさか7mも下の岩盤から。どこで何が起きるか、わからないですね。  
**岡野** そのときは現場にいたんですか。  
**根岸** 私は24時間勤務だったので、いませんでした。家族が夕食の時に「すごい水が出て大変だよ」と電話が来たので、「逃げて」と言ったんです。うちも自主防災があつて、会長が私なんです。



令和4年7月の大雨による関堀の土砂災害では、6軒の住宅が全壊し、6世帯が転居を余儀なくされた。



## 豪雨災害の経験から、地域の防災を考える

今年は「防災」をテーマに座談会を開催しました。メンバーは、消防団経験22年の**渡邊一美**町長、埼玉県のイツモ防災インストラクターで防災士の**甲山由美子**さん、令和4年の大雨で被災した関堀2区の区長・**根岸寛**さん、令和元年の台風19号で被災した番匠地区の当時の代表区長・**小室敏夫**

さん。司会は、消防審議会の会長・**岡野友幸**さん。会場は関堀集落センターで、被災者の方が実際に生活されていた部屋をお借りしました。大雨に関する被災のエピソードから、地域のチカラの大切さがうかがえます。他人事にせず、自分で、防災のために必要なことを考えてみましょう。(敬称略)

**岡野** 司会を務めます、岡野です。よろしくお願ひします。  
**町長** 町長の渡邊です。私は消防団の経験がありましたが、実際に大きな災害が起こると、経験を活かせることも活かせないこともありました。今日はよろしくお願ひします。  
**甲山** 本郷に住んでいる、甲山由美子といいます。私は、県が地域に防災を広めるプロジェクト「イツモ防災」をやっています。よろしくお願ひします。  
**根岸** 関堀2区の根岸と申します。昨年度から区長をしています。令和4年7月に土砂災害という思いがけないことがありました。行政や警察、消防などに非常にお世話になりました。とても感謝しております。  
**小室** こんにちは。台風19号のあった令和元年の当時、番匠台区で区長をしていました。私も消防団経験がありますので、ひとつ、よろしくお願ひします。  
**岡野** それではさっそく進めていきま



す。ときがわ町ではどのような災害が起こりそうか、地域の特色からみて、どうでしょうか。  
**町長** 私が消防団員だったころから、ときがわ町の災害というと、台風が来ると「山は土砂崩れ、里は大水」になると先輩から教わってきました。ところが最近、里でも土砂災害が起きました。令和4年は本当に想定外で、関堀では大変な災害があり、番匠の一部でも、そんなに高い山ではないところで、土砂崩れが起きました。  
**岡野** ニュースで見ると、50年、70年住んでいて初めて、という災害が多くなってきたような気がしますね。ここに住めば大丈夫、という場所がなくなってきたように思います。  
**小室** 前回、番匠で大水が出たのが、町長が団長だった1999年頃。令和元年と同じ場所でした。ちょうど20年くらいなので、サイクルがあるように感じます。台風が来るといつもその場所が心配になってしまいますね。  
**町長** 線状降水帯の発生により、短時間の降水量が増していることに加え、昔より川敷が上がったことも原因とされています。いろいろな面で災害のレベルが上がってきているように感じます。